

わたしの推し本コンテスト



元気の出る本、勇気もらえる本など
多くの投票がありました。
一部コメント付きで紹介します。

【崩れる脳を抱きしめて】知念 実希人

恋愛小説ですが、作中にいつか必ずやってきてしまう死について、また今私たちが存在している本質的な理由について書かれています。頭に「爆弾」を抱えた患者さんと健常な医師の感じ方の違いが興味深く、何度も読み返しています。ミステリー要素もあるのでたくさんの方が楽しめる本だと思います。



【ライオンのおやつ】小川 糸

自分が今生きている幸せに気づくことができました。「生かされているんだなあ。だって生まれるのも死ぬのも自分では決められないもの。」というセリフが、この世界に生まれてきた自分に感謝し、毎日を大切に生きようと思うことができました。



【天国までの百マイル】浅田 次郎

感動に次ぐ感動。男気に胸を打たれる。



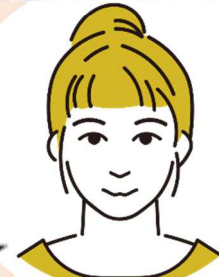
【本の背骨が最後に残る】斜線堂 有紀

現実には無いような世界観だけどリアルな表現などがあって不思議な気持ちになる。その世界観に引き込まれて読んでとても楽しいと思った。



【アルジャーノンに花束を】ダニエル・キイス

知的障がいを持っていても決して生きることをあきらめず、前向きに努力しているチャーリーの生き様に勇気もらった。何度読んで泣ける本。



【よふかしのうた】コトヤマ

読んでいると自分の共感できるセリフがバンバン飛んでくるし、キャラの個性も強くて読んで飽きない。恋愛にもアクションにもミステリーだってキャグだって胸熱にだって富んでいる作品。アニメも合わせていかがかな？



【同志少女よ、敵を撃て】逢坂 冬馬

主人公セラフィマの正義感や敵に対する思いなどが描かれていて、戦争を経験したことがない私でも戦争がどんなものだったのか分かるから。人の気持ちをよく考えようとおもえるほんです。

